

バングラデシュ開発援助勉強会
【企画(案)】

1. 背景

- (1) 我が国の経済・財政状況の悪化を受けて、ODA については支援規模や実施方法等を見直す気運が高まっている。特に LLDC 諸国の中で唯一の年次円借款国であるバングラデシュに対する支援については、援助の質の向上に際して必要とされる包括的な議論の整理が必要な局面を迎えている。しかしながら、ODA 政策決定当事者(日本政府)・実施機関間の連携が十分に機能しているとはいえず、「バ」をターゲットにした統合的なアプローチが実現しているとは言い難い状況にある。
- (2) また「バ」は重債務貧困国(HIPCs)には分類されていないものの、IDA 融資の借入国として貧困削減戦略ペーパー(PRSP)の策定に取り組んでいる。本ペーパーは、貧困削減の達成に向けて、マクロ経済政策との整合性を図りながら社会・経済開発に資する優先分野の開発戦略を開発関係者の参加型プロセスの下で策定されるものである。「バ」向け支援におけるトップドナーである我が国としても、限られた援助リソースの有効活用を図るべく、ODA 政策決定当事者(日本政府)・実施機関間で連携を取りつつ、「バ」の開発のアップストリーム部分の議論から積極的に参画することによってより効果的な支援の実施を検討していく段階にある。
- (3) 他方、我が国の NGO や学会等も「バ」に対する開発援助において着実な実績を上げてきているが、こうした市民社会組織のさらなるキャパシティ・ビルディングの必要性や「バ」政府の政策改善(アドボカシー・ガバナンス改善等) 経済社会インフラ分野等において ODA との有機的な連携のあり方が模索されているところである。
- (4) こうした状況を受けて、我が国の対「バ」支援に関わるリソースとナレッジを集結し、我が国全体の対「バ」支援の向上を議論し、また実現するためのネットワークを形成することが重要と考えられる。

2. 目的

- (1) 「バ」の政治・経済・社会情勢に関し、我が国の対「バ」開発援助の主要プレーヤー間で情報交換を行う。
- (2) (1) をベースとして、「バ」の主要開発目的(経済成長、貧困削減、ガバナンスの改善)について論点を整理する。
- (3) (2) を踏まえ、現在策定段階にある「バ」の PRSP を関係者で検討し、現場での議論に対して All Japan としての意見をフィードバックする。
- (4) (1) ~ (3) の議論を踏まえ、日本の対「バ」開発援助の主要プレーヤーが各々何を行い、どのように協調・協働していくべきかについて議論し、今後の対「バ」支援に向けて All Japan によるアクション・プランを策定する。
- (5) 議論の過程・成果については参加者間でナレッジ・シェアリングを行う。その際、常にアップ・デイトされた情報を共有し、例えばドナー会合(含むローカルドナー会合: LCG) 等我が国として「発信」しなくてはいけないときに有効に稼働できるネットワークの形成を目標とする。

3. 勉強会概要

(1) 実施方法

- ・ 事務局は JBIC 開発第 2 部第 3 班（担当：渡部、梅下）とし、会場は原則 JBIC が提供する。
- ・ 平成 13 年 12 月以降、下記のアジェンダ案に則って開催する（講師の都合等により順番等が入れ替わる可能性あり）。開催ペースは原則隔週（2 週間に 1 回程度）とするが、ドナー会合への対応等、必要性に応じて集中的に開催する等、柔軟性を持たせる。
- ・ 当日の司会は JBIC 開発 2 部 3 班岡崎課長が務める。

(2) アジェンダ案（講師の都合によって順番が変更する可能性あり）

第一部：バングラデシュ概観

第 1 回 政治面（12 月 21 日（金））

「総選挙以降の政局及び、新政権の経済・社会政策について」
（プレゼンター：アジア経済研究所村山研究員）

第 2 回 マクロ経済面（1 月中開催予定）

「マクロ経済の概況と債務負担能力について」

第 3 回 社会構造面

「「バ」農村社会の特徴について（ジェンダー及びエスニシティの観点を含む）」

第 4 回 外交面

「我が国の対「バ」外交の現状と課題について（ODA 見直し議論の影響を含む）」

第二部：バングラデシュの開発課題

第 5 回 経済成長

「必要とされるインフラ整備と民間セクター支援について」

第 6 回 貧困削減

「本行貧困アセスメントのレビュー」

第 7 回 ガバナンスと市民社会

「「バ」におけるガバナンスの問題と市民社会の役割」

第三部：PRSP の検討

第 8 回 PRSP に対する我が国の取り組み

第 9 回 PRSP 関連ペーパーの検討（Ⅰ）【分析面】

第 10 回 PRSP 関連ペーパーの検討（Ⅱ）【政策面】

第四部：日本による対「バ」支援のあり方の検討

第 11 回 All Japan 対「バ」支援向上 アクション・プランの作成（Ⅰ）

「円借款に求められるものは何か？」

第 12 回 All Japan 対「バ」支援向上 アクション・プランの作成（Ⅱ）

「無償資金協力、JICA に求められるものは何か？」

第 13 回 All Japan 対「バ」支援向上 アクション・プランの作成（Ⅲ）

「日本の市民社会に求められるものは何か？」

第 14 回 All Japan 対「バ」支援向上 アクション・プランの作成（Ⅳ）

「日本政府 / 日本国民は何をすべきか？」

4. 参加者

国際協力銀行 (JBIC) : 開発第 2 部第 3 班 (事務局)、国際審査部 (中国・南アジア G)、国際金融部 1 部 3 班、社会開発班他

国際協力事業団 (JICA) : 南西アジア大洋州課他

外務省 (経済協力局) : 政策課 (国別計画策定室)、有償資金協力課、無償資金協力課、技術協力課、開発協力課、民間援助支援室、調査計画課、評価室

外務省 (アジア大洋州局) : 南西アジア課

経済産業省 (貿易経済協力局) : 資金協力課

アジア経済研究所 : 村山氏、山形氏

IMF アジア太平洋地域事務所

NGO : (特) シャプラニール = 市民による海外協力の会、日本赤十字社、(財) 家族計画国際協力財団、アジア砒素ネットワーク

その他、アジェンダに合わせて参加を呼び、学会関係者や国際機関等に参加を呼び掛けていく予定。

【参考】 PRSP 等関連、現時点で想定されている今後のスケジュール

(1) 1 月中旬 : PRSP 第一ドラフト完成

(2) 上記 (1) に前後して、1 ~ 2 月の間にローカルドナー会合 (LCG) を 2 ・ 3 回開催

(3) 2 月 12 ~ 14 日 : IMF と「バ」政府主催で PRSP 策定プロセスに係るワークショップを開催。

(4) 2 月 17 ~ 22 日 : ODA 政策協議ミッション

(5) 3 月 14 ~ 15 日 : ドナー国会合 (正式名 : Bangladesh Development Forum、於パリ)

以上